

慶應義塾大学大学院SDM研究科附属SDM研究所マネジメントデザインセンター主催
後援：一般社団法人PMI日本支部(PDU受講証明書取得可能)、一般財団法人エンジニアリング協会

第5回 グローバルビジネスに打ち勝つ プロジェクト・マネジャー能力強化研修

PROJECT MANAGER LEADERSHIP TRAINING



対象：グローバルプロジェクトのリーダーを目指す中堅社員

合宿制集中講義×2回(計6日間コース)

2013年11/5(火)～11/7(木)、11/25(月)～11/27(水)

プロジェクトをグローバルにリードする重要な4つの能力を強化

- 大規模複雑化する現代社会の諸問題にイノベティブに挑戦する思考能力を強化
- 都市デザイン、エネルギー・環境、インフラ構築などのプロジェクト遂行能力を強化
- プレゼンテーション力とコミュニケーション力を磨きリーダーシップ能力を強化
- リーガルマインドを高め、プロジェクト遂行を支援するマネジメント能力を強化

基礎知識から実践的事例学習まで、産学協同のカリキュラム

講師陣による修講後のきめ細かいフォローアップ





第5回プロジェクト・マネジャー能力強化研修 開講にあたって

変化が激しく複雑化する現代社会の中で、少子高齢化、自然災害、国際競争力の低迷、領土問題、TPP など日本は数々の問題に直面しています。しかし日本という国は、世界に誇れる優れた技術力と、高い品質から生まれた信頼性、そして何よりも最高のサービス精神を持っています。それらを生かして社会の問題解決に適用し、世界へ展開していくための、新しい思考能力と、リーダーシップの考え方が必要な時代になっています。本研修は、一般的なプロジェクトマネジメント研修とは異なり、「システム思考・デザイン思考」の掛け算の思考能力をマスターし、イノベティブに社会を変えていくプロジェクト・マネジャーを育成しようとするものです。そのために、チームメンバー個々人の知恵を「集合知」としてつなぎ合わせていくリーダーシップスタイルを学び、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、リーガルマインドの強化を図っていきます。世界を変えるイノベーションを日本から起こしていきたい、これが本研修を提供する私たちの目指すところでありま

セミナーコーディネーター

当麻 哲哉

Tetsuya Toma

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授
Project Management Professional (PMP)、PMI 日本支部理事（教育担当）
米国3M社で製品開発スペシャリストとして、グローバル市場での数々のプロジェクトを経験。
豊富な新製品導入実績により多数の社内報奨を受賞した。2008年4月より現職。
システムデザイン・マネジメント研究科のコア科目「プロジェクトマネジメント」を担当。

研修内容

本研修では、プロジェクト・マネジャーに必要なプロジェクトマネジメント遂行能力に加えて、「システム思考×デザイン思考」によるイノベティブな思考能力、リーダーシップ能力、組織的な支援能力の4つを同時に強化していきます。

A システムデザインによる思考能力の強化

- 「木を見て森も見る」全体のバランスを捉える力を強化
- システム思考とデザイン思考を統合したシステムデザインの理解
- 激動の時代を生き抜くための、思考様式・行動様式の改革

B プロジェクトマネジメント遂行能力の強化

- グローバルビジネスを成功に導くためのスキルの強化とツールの習得
- プロジェクトマネジメント遂行技術の強化ポイントとは
- プロジェクトの効果的な進め方と進捗管理の評価方法の習得

C 効果的リーダーシップとコミュニケーション力の強化

- 情報の共有化によるチームマネジメント構築のリーダーシップ強化
- 葛藤処理におけるリーダーシップ～「人に優しく、議論に厳しく」
- 欧米と日本の対照による論理的コミュニケーションの特徴とは

D プロジェクトを支援するマネジメント組織力の強化

- 組織を前向きに変えるリーダーシップとイノベーションの方法論
- 契約上の法的要請に対応できるリーガルマインドの育成
- 効果的なプロジェクト遂行のためのPMO機能と技術基盤

講師陣



プロジェクト（大中小型）遂行の仕組みの理解とプロジェクトマネジメントの基盤の強化

喜ばせれば人は力を出すのです。プロジェクトリーダーに必要なことは、いかに気持ちよく仕事のできる環境を作ってやるかということです。「失敗してもオレが責任を持つ」と権限を委譲（Delegate）し、失敗を責めずに解決策と一緒に考えてやることです。近年、水ビジネスや高速鉄道、原子力発電、都市開発など、多数の組織や企業が絡む複雑なシステムビジネスのニーズが急増しています。細かく管理するマネジメントや、専門技術のスペシャリストだけでは、こうした複雑なプロジェクトを引っ張れません。システムエンジニアリングによる全体を見る力、効果的ビジネス展開ができるプロジェクトリーダー育成が急務となっています。

チーフ・トレーナー
高橋 良之
Yoshiyuki Takahashi

日揮プラントイノベーション顧問

1964年 日揮株式会社入社、国内・海外の石油精製、化学、食品加工、家電、自動車関連プラントのプロジェクトをプロジェクトマネジャーとして担当。エンジニアリング振興協会（当時）では、80年代にプロジェクトマネジメント部会委員を務める。現在は大学を含めたプロジェクトマネジメントの講座、研修会の講師、コンサルタントなどを行っている。



説得と調整のリーダーシップ力を開発・強化

チームマネジメントにおけるリーダーシップに必要なのは、論理的な説得力をもって、人間関係を高めていくコミュニケーションです。ネゴシエーション、プレゼンテーション、アーギュメンテーション、コンフリクトマネジメント、グループインタラクションなどを通して、組織メンバーの意思決定プロセスへの参加を促すマネジメント（Participative Management）が重要なことです。こうした組織全体を見てコンセンサスを作っていくマネジメントは、いわば日本の良い文化とも言えるでしょう。私たちに不足しているイノベーションや戦略性を加えることで、効果的なプロジェクトマネジメントを構築し、海外ビジネスでの日本の競争力を強化し、戦略的リーダーシップをとれる人材を育成します。

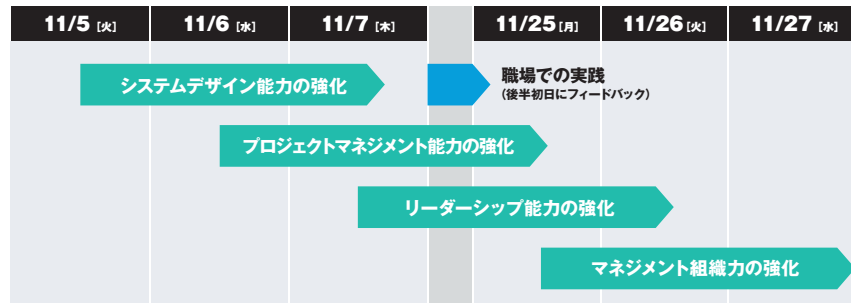
岩下 貢
Mitsugu Iwashita

株日米コミュニケーションセンター所長

南カリフォルニア大学大学院博士課程に2年間在学し、「Debate and Argumentation」のコーチを務める。その後、山武、マツダ自動車、デンソー、NEC、IBM 各社の海外進出にあたってのマネジメント作成、市場戦略作成、社内外の効果的折衝方法などのセミナーへ参加、助言を行っている。

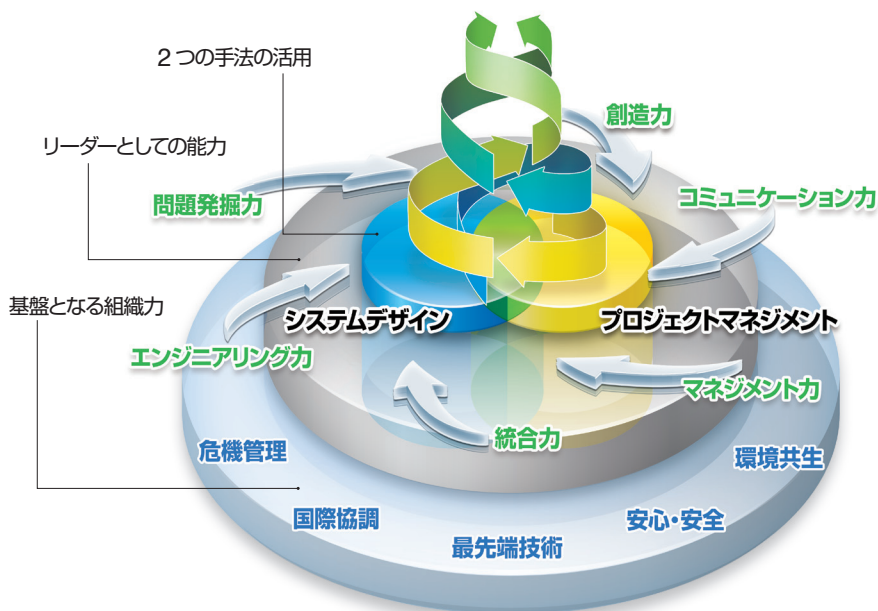


カリキュラム



全てのカリキュラムを修了された方には、最終日に「修了証書」をお渡しします。

プロジェクト・マネジャーの能力強化



過去参加者からの声

リーダーシップとは何かという点について、他の受講生の発表を聞き、様々な角度でのものの見方があるということをまさに実感した。また、それにより自身としてどうリーダーシップを発揮していくかという点を深く考えさせられた。(30代男性)

プラント建設という大規模システムのプロジェクトマネジメントの経験と実績を持つ講師陣の講義を受けることができた点が良かったと考えています。また、プロジェクトマネージャのあるべき姿が理解できたと考えています。(40代男性)

どの講義も現場感が伝わる非常に迫力に満ちた講義で、具体的なことも折り込みながらとても聞きやすく、短期集中で同じテーマについて効率的な勉強ができた。また、夜中までプレゼンの練習をする、という経験はなかなかできるものではない。資料も細かくわかりやすかった。(30代女性)

いろいろ学ぶことができましたが、特に、PMBOKで書かれていることが実際の現場でも役に立つということ、プロジェクトマネージャのあるべき姿というものが理解できたと考えています。(40代男性)

まず講師のパワフルさに圧倒されました。外国人とのコミュニケーションにおけるポイントも明確に説明され、今後の業務に役立つと思います。(30代男性)

プレゼンテーションの技巧に関し、大変勉強になりました。結論を決めてからそこへ向けて議論を組立てて行く方法。相手をひきつける話し方。大変勉強になりました。(30代男性)

長年の経験に裏打ちされた内容で、門外不出ではないかと思われる資料も開示頂き感謝しております。また、人材育成の点でもどの様に経験・ノウハウ・スキル・勘所を伝授していくかという点について、業態は異なっても参考になることが多かったです。(40代男性)

「木を見て森も見る」全体のバランスを捉える力を強化

「木を見て森も見る」。プロジェクトリーダーに必要なのは、1本ずつの木を見極めながら、森全体のバランスをうまく捉える力です。高度成長期の苦境を数多く乗り越えてきた経験豊富な世代が次々に引退するなか、従来のOJT中心の方法では、リーダーの育成が間に合わなくなっています。また多くのプロジェクトが、複数の企業が複雑に絡み合う大規模なものとなってきています。高度で複雑な問題を可視化し、多視点で捉えて解決していく「システムデザイン・マネジメント」の考え方を積極的に取り入れた、新しいプロジェクトマネジメント手法により、グローバル社会で勝ち抜いていく次世代のリーダー育成に挑戦します。

白坂 成功

Seiko Shirasaka

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 准教授 / Project Management Professional (PMP)
三菱電機株式会社では「こうのとりのり」(HTV: H-II Transfer Vehicle)の開発でアビオニクスアーキテクチャ設計、システム安全設計をはじめ、全体インテグレーションを行う。フライトコントローラとして運用終了まで実施。「こうのとりのり」開発では多くの賞を受賞。2011年度より現職。専門分野は、システムズエンジニアリング、宇宙システム工学、システム安全 / 機能安全。

契約上のリスクと法的要請への対応

リーガルマインドに欠けていると言われる日本人。このため、技術的には世界最高レベルのプロジェクトリーダーが、契約リスクの処理を誤って挫折することがしばしば起きている。例えば、プロジェクトそのものは納期内に、仕様書どおり立派に完成したのに、契約で税金の負担について明確にしておかなかったため、最後に現地国の税金を多額に賦課され、一転して大赤字のプロジェクトになってしまった、などが典型的な事例でしょう。「手術は成功した。しかし、患者は死んだ!」の現象が日常茶飯事に生じているのです。このような悲劇はプロジェクトリーダーがわずかに握りの契約知識を持っていれば未然に防げます。本研修で契約リスクの適切な処理方法について習得してください。

古屋 邦彦

Kunihiko Furuya

九州国際大学大学院法学研究科教授
1966年 慶應義塾大学法学部政治学科卒業。同年、総合エンジニアリング会社日揮株式会社に入社。一貫して法務部門に在籍し、国際契約(プロジェクト、知的財産ライセンス、M&Aなど)を担当する。2000年より現職。国際取引法を担当している。



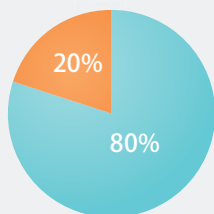
産学協同での強化研修の実現

〈プロジェクト・マネジャーの能力強化スケジュール〉

第1段階 2～4年目

プロジェクトマネジメントの
必要性和仕組みの理解・習得

ON-JOB (産によるコーチング)



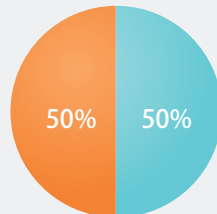
OFF-JOB (学によるティーチング)

プロジェクトを成功裡に導くための「プロジェクトマネジメント」技術の定義と機能から理解・習得する期間。

ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約20:80。

第2段階 4～7年目

プロジェクトマネジメントの
機能・技術の習得

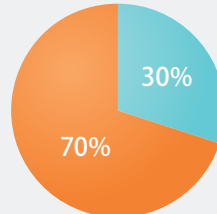


プロジェクト・マネジャーが具備すべき技術を理解し、問題の可視化、多視点に立った判断力を養い、実JOBに適応させながら習得する期間。

ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約50:50。

第3段階 7～10年目

プロジェクトの成功・失敗の事例
研究による専門部門、個人としての
能力アップ

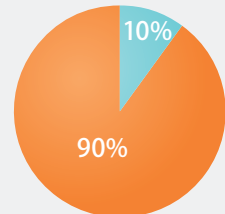


各々の実プロジェクトで発生するトラブルなどを、事例研究を通じて理解を深め、プロジェクト・マネジャーの能力向上を行う重要な期間。

ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約70:30。

第4段階 10～16年目

事例を題材とした Work shop
による企業としてのプロジェクト
遂行能力アップ



ワークショップを通して、事例の中からプロジェクトを成功裡に導くための改革・改善をピックアップし、プロジェクト・マネジャーの更なる能力向上を行う重要な期間。

ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約90:10。

第1段階

第2段階

第3段階

第4段階

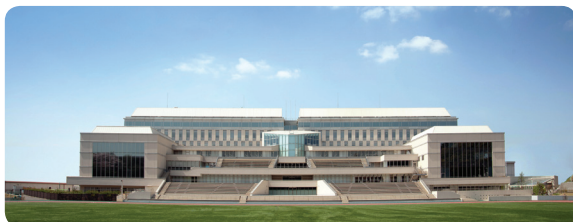
「プロジェクト・マネジャー能力強化研修」は、第2段階を中心とし、その前後の段階を一部カバーする

第5回 グローバルビジネスに打ち勝つプロジェクト・マネジャー能力強化研修 募集要項

- 期 日 : 2013年11月5日(火)～7日(木)、11月25日(月)～11月27日(水)
- 会 場 : 慶應義塾大学日吉キャンパス協生館
- 募集定員 : 25名
- 対 象 : グローバルプロジェクトのリーダーを目指す中堅社員
- 受講料 : 250,000円(税別) ※宿泊費は別途お納めいただきます
- 申込方法 : WEBサイトよりお申込ください。



協生館宿泊施設
合宿形式セミナーのため、11月5日(火)、6日(水)および11月25日(月)、26日(火)は、原則として協生館内の研修宿泊施設へ宿泊していただきます。

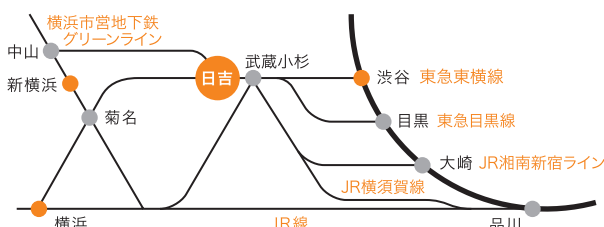


システムデザイン・マネジメント研究所 (SDM 研究所) とは?

SDM 研究所は、企業をはじめ社会のあらゆる組織におけるシステムデザイン・マネジメントの理解とマネジメント能力の向上のため先端的研究・教育を行い、広く社会の発展に寄与することを目的として設立された研究科附属の研究所です。

講座・公開講演・セミナー等の開催ならびに講師派遣、システムデザイン・マネジメントに関する研究調査、外部機関との研究プロジェクトの推進、国際機関・世界各地の大学および研究機関との協力・提携ならびに交流などの事業を行っています。

交通アクセス



東急東横線、東急目黒線

※東急東横線の特急は日吉駅に停まりません。

横浜市営地下鉄グリーンライン

渋谷～日吉: 急行18分(通勤特急16分)

横浜～日吉: 急行12分(通勤特急10分)

新横浜～菊名～日吉: 14分

日吉駅直結

お問合せ先

慶應義塾大学
日吉学生部 SDM担当



〒223-8526 横浜市港北区日吉4-1-1 協生館2F
Tel: 045-564-2518 Email: sdm@info.keio.ac.jp

<http://www.sdm.keio.ac.jp/>